



皆さんこんにちはは町立下川病院の片野です。春は卒業・入学の季節です。4月からはまた新しい学校生活・社会生活が待っています。楽しみですね。

さて、新しい生活に入る前に、まだ受けていない予防接種はありませんか？



しかしこの病気が怖いのは、妊婦さんが風疹に感染してしまうと、おなかの赤ちゃんが「先天性風疹症候群」になってしまう恐れがあることです。「先天性風疹症候群」は心臓病、難聴、白内障の3つの症状が特徴で、そのほか様々な異常を赤ちゃんにもたらします。



「先天性風疹症候群」を予防するため、昭和37年4月2日生まれの女性から、中学生の時に風疹の予防接種が受けられるようになり、昭和54年4月2日より後に生まれた方は、男女とも風疹の予防接種を受ける

第二十二回 新生活に入る前に予防接種を

町立下川病院 院長 片野 俊英



「はしか」の予防接種は受けましたか？

去年の夏にも沖縄県からはしかの流行がはじまり、関西地方まで広がりました。予防接種は、個人を守る目的のほか、病気自体をなくす目的もあります。現在の日本では日本国民からはしかの発症はないものの、外国から入ってきたはしかのウイルスが、国内のまだ抗体を持っていない方に感染して広がります。天然痘のように、予防接種をみんな受けて完全にウイルスが世界から消え去れば、予防接種も必要なくなります。

ようになりましした。つまり、昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれの男性は、風疹の予防接種を受けていません。そのためにこの年代の男性は、ほかの年代と比べ風疹抗体を持っている方が少ないのです。

風疹の予防接種を受けていないで、実際に感染してしまった方もいますので、この年齢の男性には、まず抗体検査と（血液検査）、まだ感染していない（抗体を持っていない）方には予防接種を受けてもらいます。今年度はまず昭和47年4月2日から昭和54年4月1日生まれの男性に無料のクーポン券が配られます。病院に受診しなくても健康診断などの機会でも検査ができるようになります。なお昭和37年4月2日からの方は来年度からクーポン券

ります。

はしかの予防接種は、ほとんどの方は赤ちゃんのうちを受けているはずですが、しかし、せっかく予防接種を受けていても、残念ながら一部の方は徐々に効果が落ちてきてしまいます。そして、集団生活で一度はしかが流行すると、予防接種を受けていない方はうつってしまう可能性が高いです。そのため、今は小学校入学前にもう一度はしかの予防接種を受けるきまりになっています。まだ受けていない方は、新しい生活に入る前に早めに予防接種を受けてください。



をお配りしますが、早めに検査をご希望であれば可能ですのでお知らせください。

ぜひ健診などで風疹の検査を勧められたら受けていただき、まだ感染していないと分かった時は町立病院で予防接種が受けられます。予防接種も無料です。

女性の方も、妊娠時は必ず風疹の検査を行います。が、その時にもし風疹の抗体がないとわかってても妊娠中に予防接種はできません。

今年度から成人男性に「風疹」の予防接種

さて、今年度から3年間で、昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれの男性にも、風疹の予防接種を行うことになりました。

風疹は別名「三日はしか」と呼ばれ、感染すると2〜3週間の潜伏期の後に発熱、発疹、リンパ節の腫れが起こります。しかしはしかと比べいづれも軽い症状なので、気付かずに病院を受診しない方もいます。

ん。ご出産を希望されている方は夫婦そろって風疹抗体の検査を受けていただき、その結果まだ抗体をお持ちでない方は風疹の予防接種を受けて、安心して元気な赤ちゃんを産んでほしいと思います。検査・予防接種とも町立病院で行うことが出来ますのでご相談ください。

お問い合わせ

町立下川病院

☎・☆4-12039

